

RESAS分析データ

千葉県千葉市

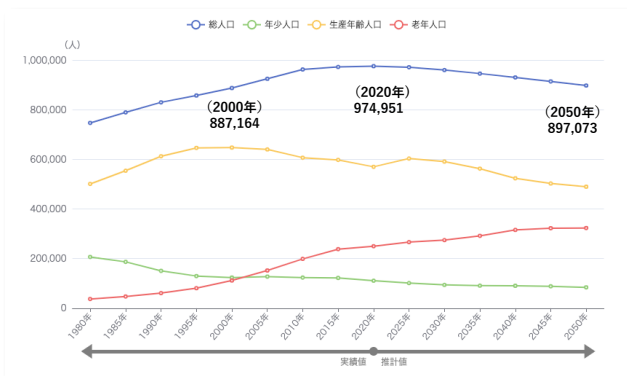
<https://resas.go.jp>



人口

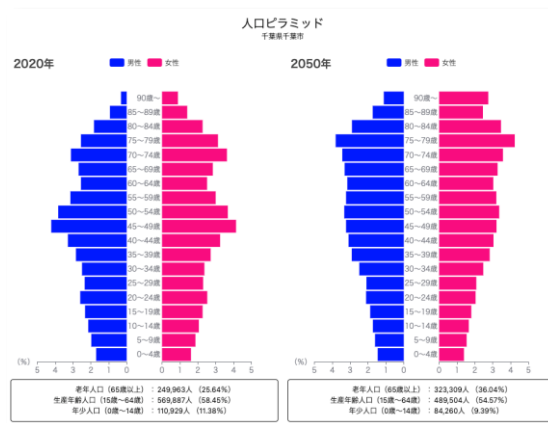
- 2020年の人口は総人口974,951人。20年前（2000年）の887,164人に対して増加していると言える。年齢別に将来の傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少傾向、老年人口は増加傾向にある。よって、少子高齢化が一層進んでいく地域である。事業者は、少子高齢化の進行に対応したビジネスモデルの再構築が必要といえる。
※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15～64歳、老年人口は65歳以上をさす。
- 人口ピラミッドは、現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。老年人口の割合をみると、2020年の25.64%から2050年には36.04%まで上昇する見込み。一方、生産年齢人口は2020年の58.45%から54.57%まで低下する見込みであり、労働力不足、消費の縮小などが予測される。
- 千葉市中央区の滞在人口は昼間人口と夜間人口を月ごとに比較したグラフである。平日及び休日の人口をみると、昼間の滞在人口が夜間の滞在人口を上回っていることから、区内への流入人口が区外への流出人口を上回っていることが読み取れる。

年齢別人口推移



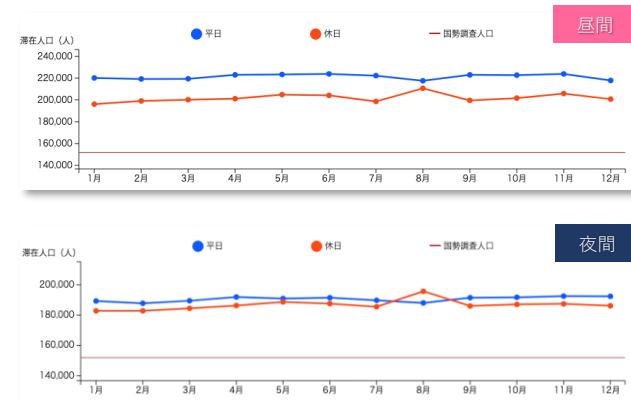
* 人口マップ→人口構成→人口推移

人口ピラミッド



* 人口マップ→人口構成→人口ピラミッド

滞在人口（2022年、上：昼間、下：夜間）



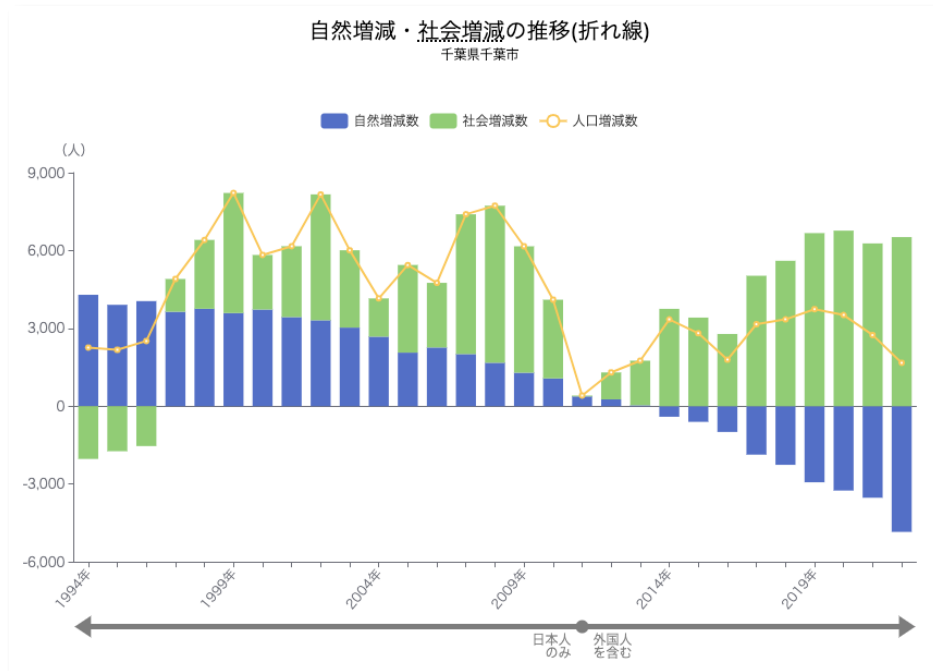
* まちづくりマップ→滞在人口率

※昼間は14時、夜間は20時のデータ

人口増減の要因

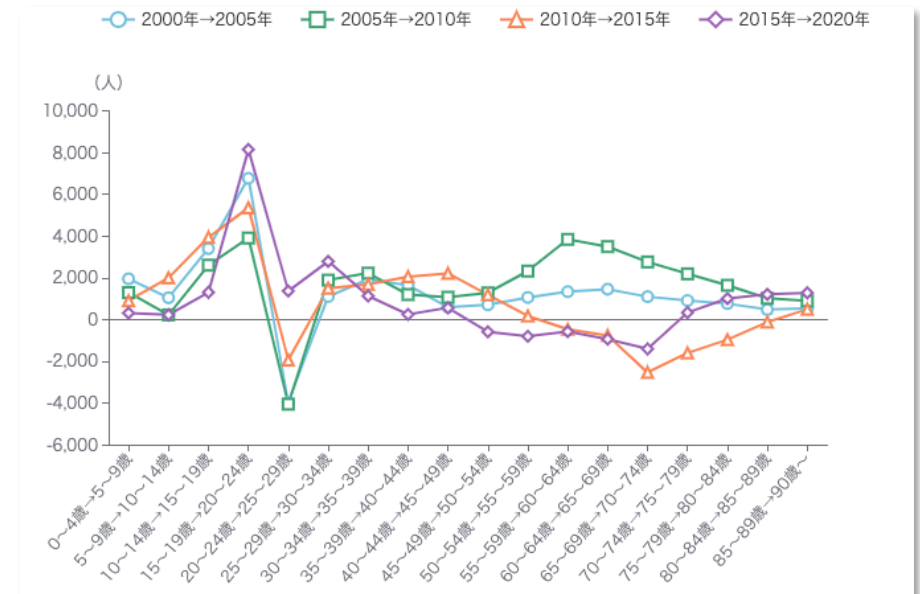
- 2014年より、自然減が加速しているが、社会増が増えているため、人口は増え続けている。
- 年齢階級別純移動数の時系列推移については、主に大学進学時、就職等のタイミング（15～19歳→20～24歳）で人口が大きく流入、20～24歳→25～29歳で流出後、年代ごとに増減の波はあるが、大きな流れとしては横ばいの傾向がみられる。

自然増減・社会増減の推移



* 人口マップ→人口増減

年齢階級別純移動数の時系列推移



* 人口マップ→人口の社会増減

【出典】

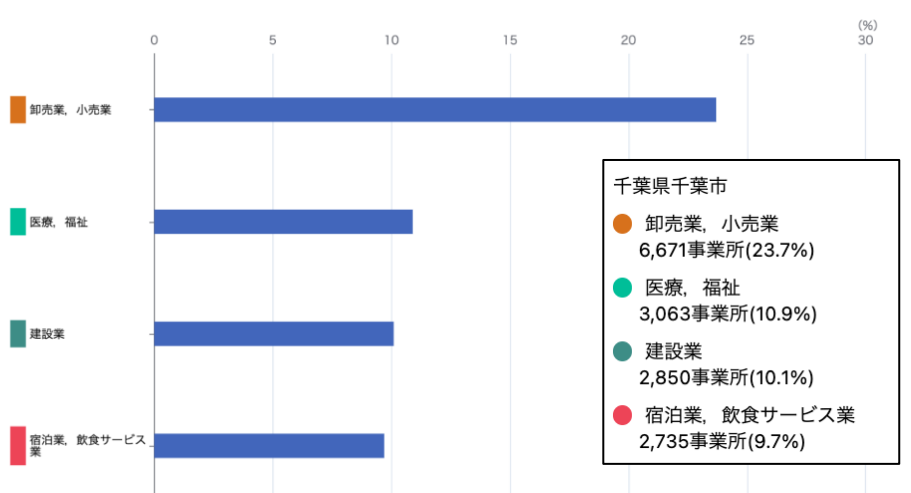
総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成

産業構造 <事業所数>

- 業種ごとの事業所数を示したグラフをみる。
もっとも多いのは「卸売業、小売業」の6,671事業所で、全体の23.7%を占めている。
その後「医療、福祉」の3,063事業所10.9%、「建設業」の2,850事業所10.1%が続く。
- 事業所数の推移を示したグラフをみる。
2021年は28,204事業所。9年前の2012年と比較すると28,629事業所だったので1.5%減である。

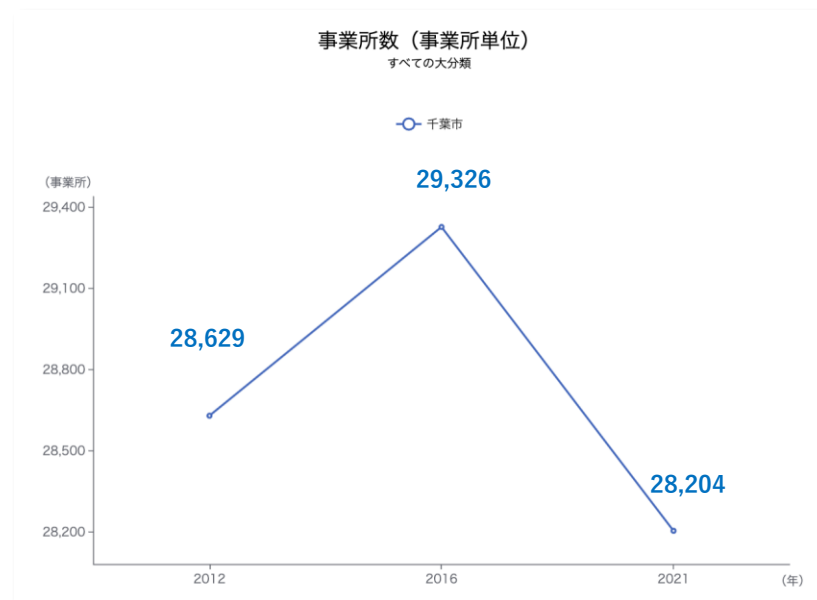
事業所数（事業所単位）大分類（2021年）

事業所数（事業所単位）：28,204事業所



* 産業構造マップ→全産業→全産業の構造

事業所数の推移



* 産業構造マップ→全産業→事業所数

産業構造 < 従業者数 >

■ 業種ごとの従業者数を示したグラフをみる。

もっとも多いのは「卸売業、小売業」の89,104人で、全体20.7%を占めている。

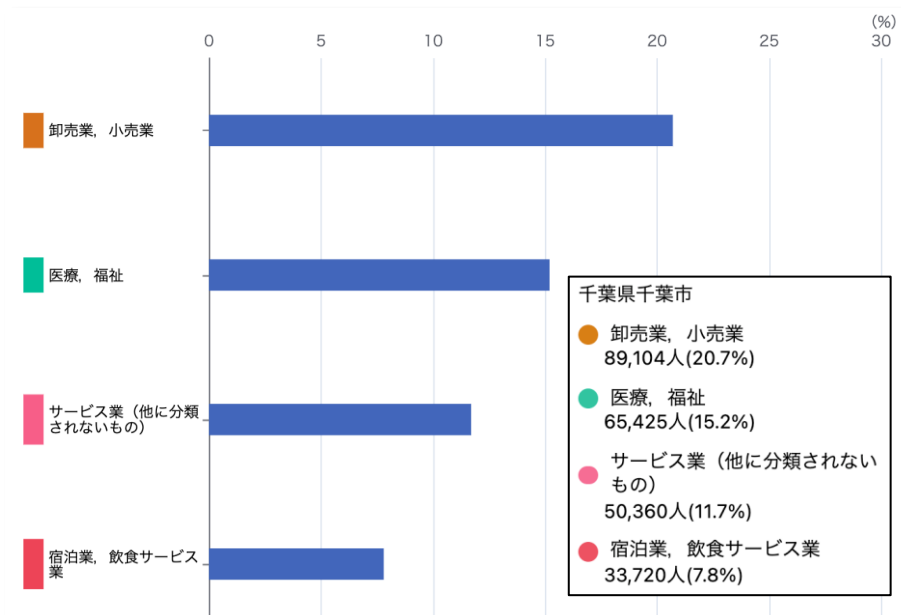
その後「医療、福祉」の65,425人の15.2%、「サービス業（他に分類されないもの）」の50,360人の11.7%が続く。

■ 従業者数の推移を示したグラフをみる。

2021年は431,270人、9年前の2012年の385,877人と比較すると11.8%増である。

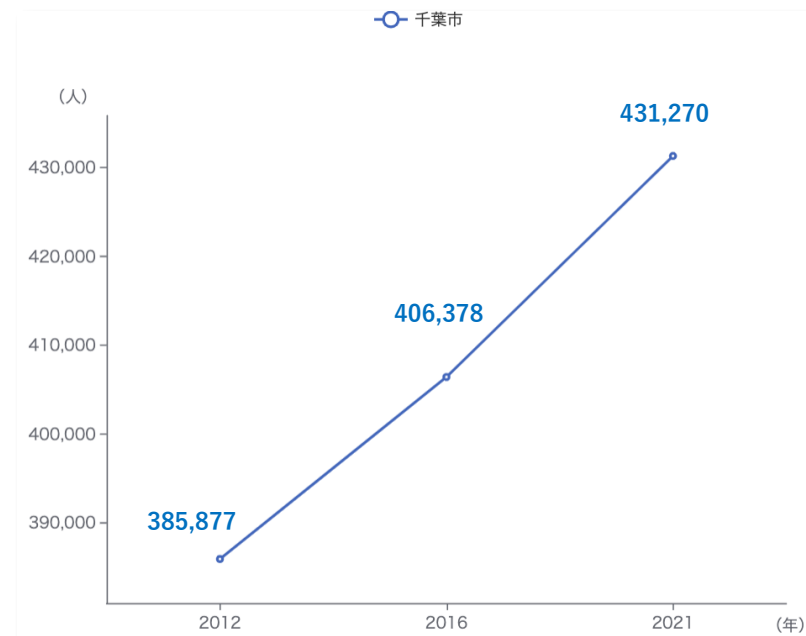
従業者数（2021年）

従業者数（事業所単位）：431,270人



* 産業構造マップ→全産業→全産業の構造

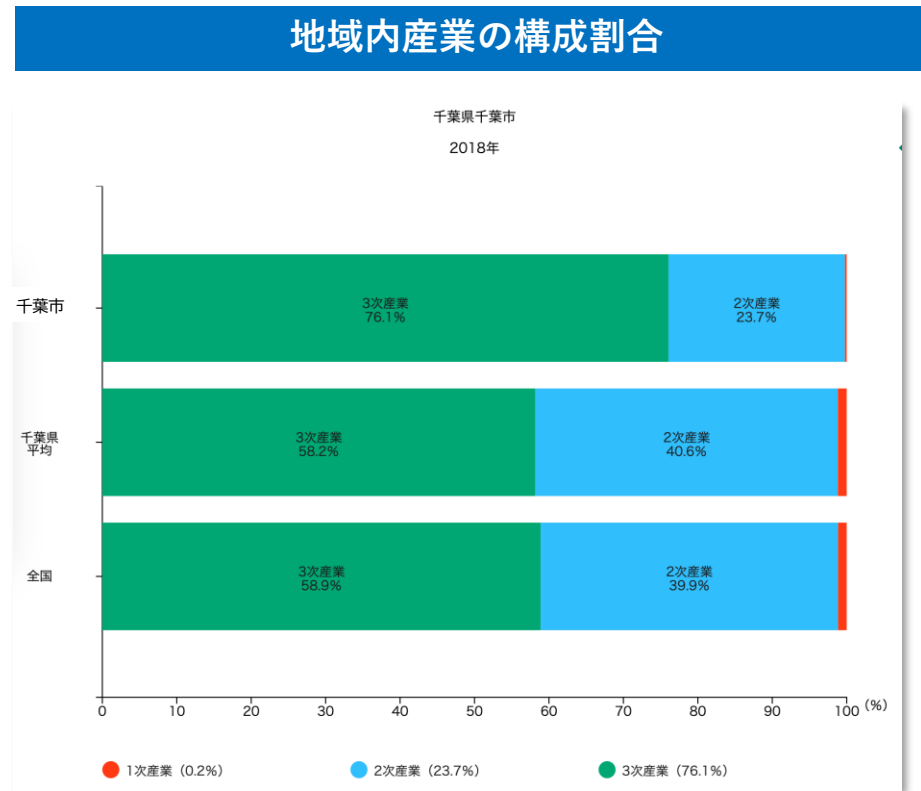
従業者数の推移



* 産業構造マップ→全産業→従業者数（事業所単位）

産業構造 <地域内産業の構成割合>

- 千葉市の産業の構成割合を全国および千葉県と比較したグラフである。
3次産業の割合が76.1%であり、全国の58.9%、千葉県の58.2%と比べて高い。
2次産業の割合は23.7%であり、全国の39.9%、千葉県の40.6%と比べて低い。



* 地域経済循環マップ→生産分析

* 1次産業・・・農業、林業、漁業など

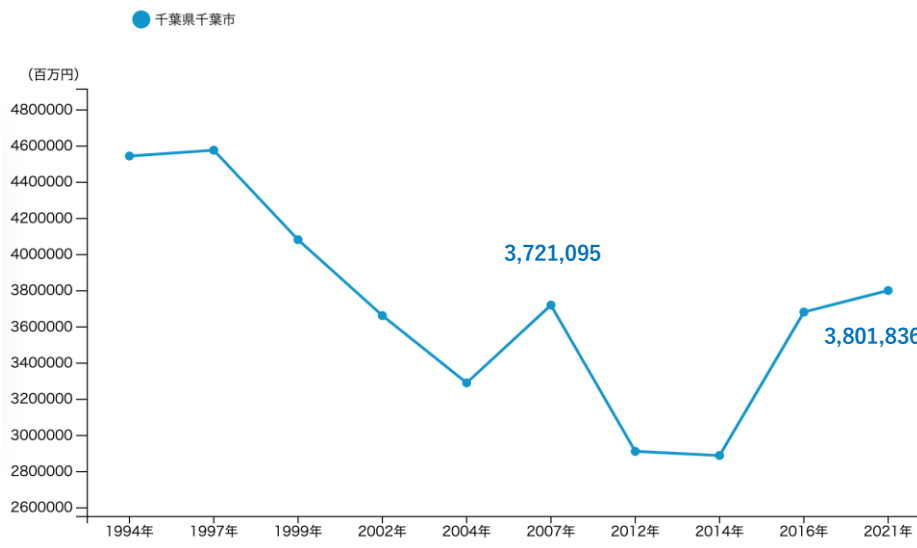
* 2次産業・・・製造業、建設業、工業など

* 3次産業・・・商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業や、外食産業・情報通信産業など

小売業・卸売業

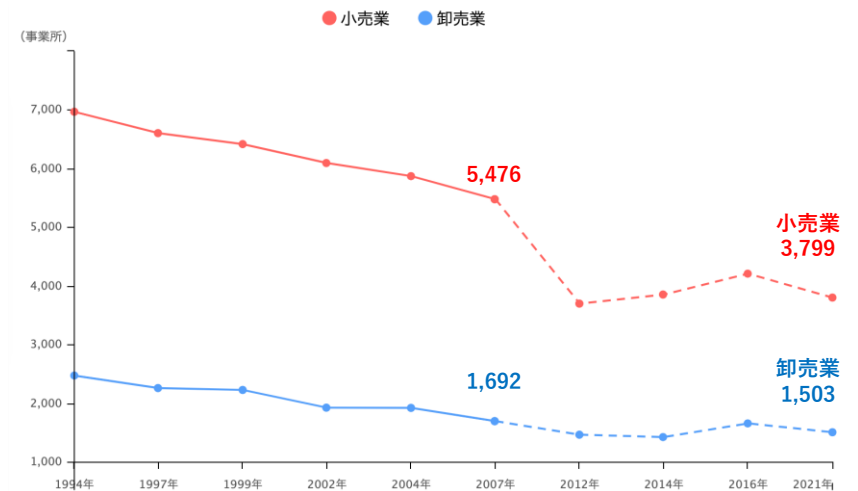
- 小売業・卸売業の年間商品販売額の推移を示したグラフをみる。
2021年の年間商品販売額は3,801,836百万円である。
14年前の2007年と比較すると3,721,095百万円なので、2.2%増である。
- 小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフをみる。
2021年の事業所数は、小売業3,799事業所、卸売業1,503事業所である。2007年と比較すると、小売業は30.6%減、卸売業は11.2%減となっている。

年間商品販売額の推移



* 産業構造マップ→小売・卸売業→年間商品販売額

事業所数(小売業・卸売業)の推移



* 産業構造マップ→小売・卸売業→商業の構造

* グラフ上の破線は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「産業統計調査」と「経済センサス活動調査」の集計対象範囲の違い等から、単純に調査年間の比較が行えないことを示している。

製造業

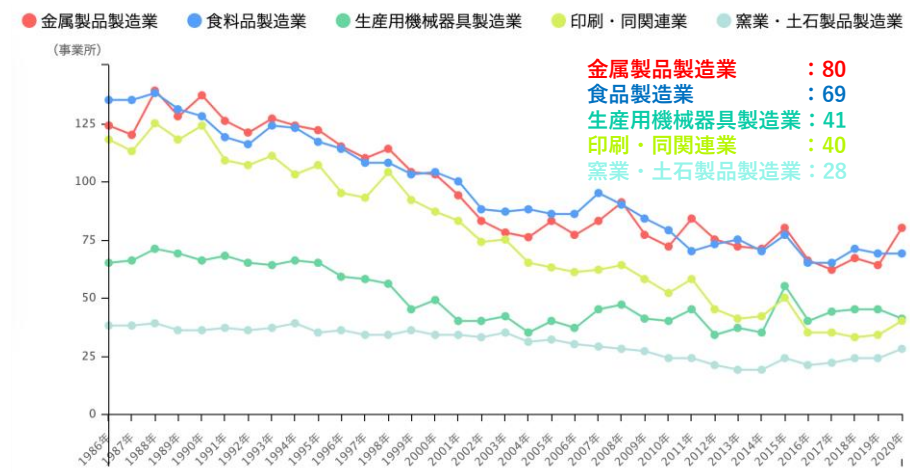
- 製造業の製造品出荷額等の推移を示したグラフをみる。
2020年製造品出荷額等は、1,214,537百万円である。
4年前の2016年と比較すると、1,104,699百万円なので9.9%増である。
- 主要製造業の事業所数の推移を示したグラフをみる。
①金属製品製造業②食品製造業③生産用機械器具製造業が多い。
2008年以降、窯業・土石製品製造業以外、減少傾向である。

製造品出荷額等の推移



* 産業構造マップ→製造業→製造品出荷額等

事業所数（主要製造業）の推移



* 産業構造マップ→製造業→製造業の構造

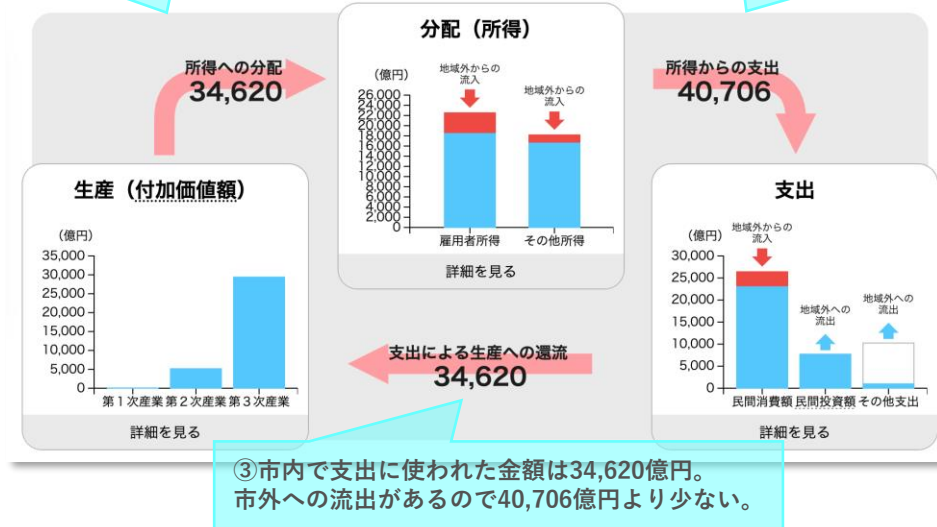
地域経済循環

- 地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。
- 左図の「生産（付加価値額）」の内訳を面の大きさを示したグラフである。
付加価値額が高いのは「住宅賃貸業」「保健衛生・社会事業」「専門・科学技術、業務支援サービス業」である。
※なお、グラフの色は、地域外から稼いでいる産業（赤色）と地域外から必要としているものを調達している産業（青色）を表している。

地域経済循環図（2018年）

①千葉市の企業は合計34,620億円の付加価値を生み出している。

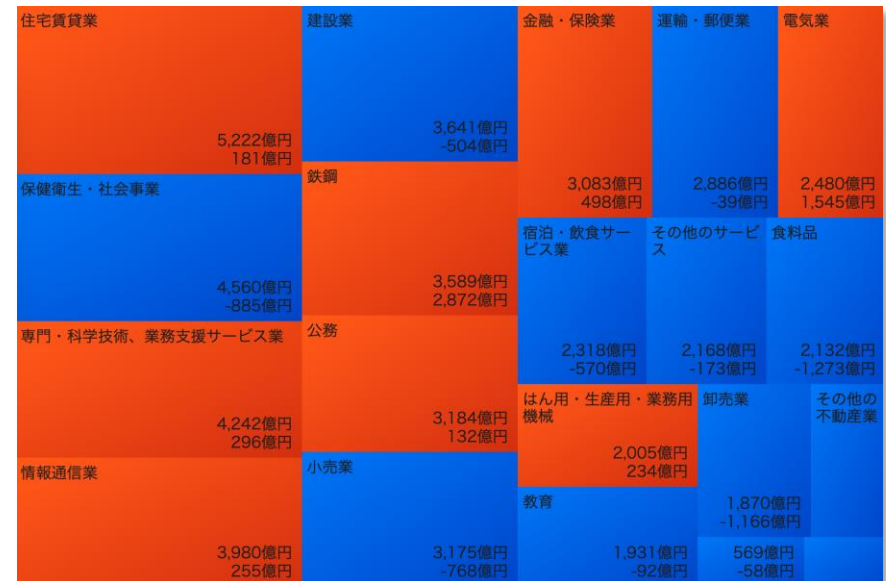
②付加価値のうち、支出に回されるのは、40,706億円。市外からの流入があるので付加価値を上回っている。



* 地域経済循環マップ→地域経済循環図

生産分析（2018年）

総額：56,913億円



上図以外の付加価値額の合算：2,236億円

* 地域経済循環マップ→生産分析

雇用

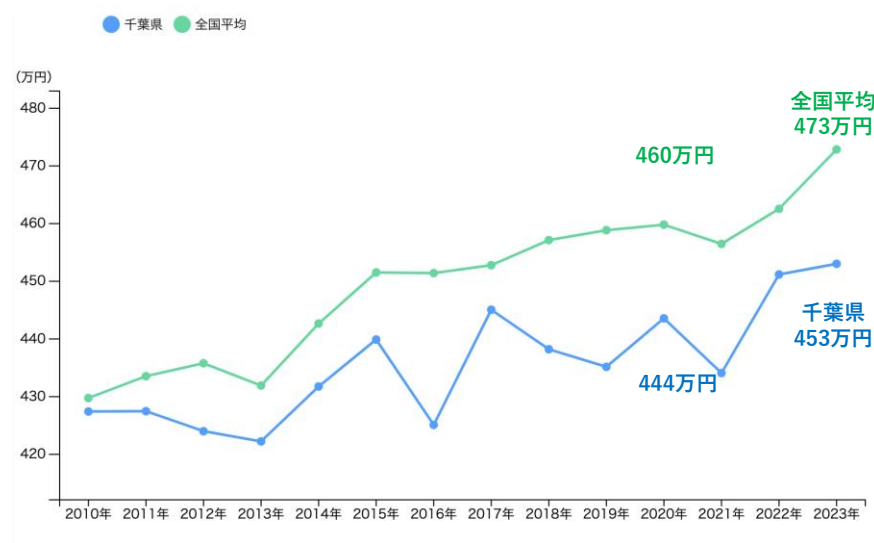
- 千葉市の求人情報数の推移（事業所単位：前年同月比）を示したグラフをみる。
2024年3月は、前年同月比-10.10%と求人情報が減少している。1年前の2023年3月は、前年同月比53.48%増である。
ここ1年の推移をみると減少傾向にある。
- 千葉県の一人当たりの賃金を全国平均と比較したグラフをみる。
2023年は453万円であり、全国平均の473万円と比べて低い。
3年前の2020年は444万円、こちらも全国平均の460万円を下回っている。
一人当たり賃金の全国順位は13位である。

求人情報数の推移（前年同月比）



* 産業構造マップ→雇用→求人情報の比較

一人当たり賃金



* 産業構造マップ→雇用→一人当たり賃金